

令和6年度 大田区立石川台中学校 自己評価 報告書

令和7年3月4日

○ 本校の概要

教育目標：「思考力に富む生徒・実行力のある生徒・情操の豊かな生徒」を受け、「これからの社会に貢献する人間性豊かでたくましい人」を育てる
 学校規模：生徒数 213人(5月1日現在) 学級数 8学級(通常級1～3年各2学級、特別支援学級1年～3年 2学級)
 特色ある教育活動：小規模のよさを生かした落ち着いた環境での学習 小規模のよさを生かした「自覚ある生徒」を育てる学校行事
 令和2・3年度 大田区教育委員会教育研究推進校「読解力を向上させる指導の工夫」としての研究成果を生かし、各教科において読解力の向上の視点に立った学習指導
 スーパーアクティブスクール校(平成28・29・30年度)としての研究成果を生かし、体力向上の視点に立った健康教育
 保護者、地域、学校支援地域本部の協力を得た活動

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄								
								評価人数	コメント							
生予個 き測別 力難標 をな1 育未成 来し社 会を創 造的に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	生徒、保護者アンケートによる本校の学習満足度	4: 85%以上	・教科横断的な学びはSDGsの視点で各教科での環境教育、家庭科における5Rについての課題解決の学習などを取り組んでいる。課題解決に向けては、グループでの話し合い活動を行い協働的な取り組みができていて、生徒の7割が課題解決学習への意欲的取り組みを行っているとの回答があった。 ・職場体験や校外学習などの体験活動で、自ら考えて判断する力や他者と協働していく力を育成することができている。さらに生徒の自主性を伸ばし判断する力を向上させていく。 ・情報モラルの学習を深め、タブレットを使用した意見共有や意思決定などに効果的に活用ができていて、具体的には、オウリングプラスを使用した意見共有、ゲーグルフォームでのアンケート集計、英語科でのデジタル教科書を使用した家庭学習で発音や学習内容の復習など効果的に活用ができていた。	A	10	・STEAM教育等の科学教育に関する内容について、どのように取り組んでいるのか言及があると良い。 ・タブレットなどICTの活用は大切な機会だと思います。そこで大切なのは生徒の自主的・自発的な取り組みが大切だと感じます。石川台中の生徒はどうでしょうか。生徒がICTの機器を操作している所は見えていないのでわからないのですが、タブレットの活用はできていると思います。 ・教科作品展では、家庭科の5Rについての発表は、よくまとめてあり素晴らしいです。ICT機器が様々な学習で上手に活用できていると思いました。 ・予測不可能な未来において、自己の将来に起こるべき様々な困難に立ち向かう力を育成するため色々工夫を凝らしている学校教員に敬意を表しています。 ・授業参観の際に、生徒間でのぬくもりを感じました。						
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								3	2: 70%以上	・タブレットなどICT機器の効果的な活用は7割の保護者に理解をいただいている。生徒が効果的に使用できると思う割合は75%であった。さらに積極的な活用を期待されているため、タブレットを用いた指導の可能性を広げる工夫をする。 ・オンライン授業配信はインフルエンザ等で出席停止や不登校生徒の学習保障になり7割の保護者から理解をいただいているが、実技科でも、オンラインで取組やすい授業になるよう工夫が必要である。			
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											C	2: 60%以上	・新たな取り組みに試行錯誤が見られる。取り組み評価は低いがさらに改善意欲も見られ期待している。 ・職場体験や校外学習などの体験活動を通じて課題検討やタブレットなどのICT機器の活用による情報活用能力などの育成といった様々な取り組みが生徒の力になっていると考える。
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。													
お世個 お別 た目 を標 担な2 うが 人材 国際 を際 育都 成市 しま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	生徒、保護者アンケートによるあいさつ・対人関係項目に肯定的な回答の割合	4: 85%以上	・英語検定3級以上取得の生徒割合は全体の63%になっており、英語力の向上に使える英語力が繋がっていることがみられている。 ・外国語教育指導員は生徒と良いコミュニケーションを取り、英語力や能力育成につながる活動になっている。 ・挨拶を基本としたコミュニケーションの指導については、9割の保護者に理解をいただいている。日頃より挨拶について力を入れてきた成果を感じることが出来た。継続をする。 ・各教科で人権を意識した教育活動を行い、伝統文化や多様性、国際理解などの学習を深められている。 ・人権尊重の取組について、保護者は8割の理解がある。生徒の意識は93%が人の嫌がることをしない言わないなど相手を知る人権意識がみられた。今後も様々な校内活動での推進体制を深めていく。 ・地球規模の視点での課題解決に向けての学習は、まだまだ深めていく必要があり、オンラインによる諸外国の方々との遠隔のコミュニケーションによる交流学習など工夫をしていく。	A	11	・英検取得に大変力を入れていることが伺える。 ・私は英語が苦手です。外国語を少しでも使えらるとパソコンやタブレットで情報量が格段に増えると思います。情報によりますと、言語話者人口は、英語が世界1位で日本語は11位だそうですね。英語が少しでも話せると多くの方とコミュニケーションが得られると思います。 ・道徳公開授業では「命」について参観しました。家庭や学校で愛情をたっぷり受け、育った石中の生徒は人に優しく、相手を理解し互いに尊重しあう心が育っているのだと感じました。その心が世界に向けている事を期待します。 ・世界との交流を深めるため英語力向上をはじめとするコミュニケーション力の醸成を図り、相応の成果を上げていると思います。 ・礼儀、言葉遣い良いと思います。 ・人権啓発作品展の参加ありがとうございました。 ・オンライン授業が可能になり世界の同年代の方との交流ができるようになるのは素晴らしいと思う。 ・全校一丸となって英語検定取得や人権尊重の取り組み、そしてその理解が保護者及び生徒とともに高い割合となっているなど、これからを担う人材となるよう着実な育成に努めていることが伺える。						
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								4	3: 70%以上	・人権尊重の取組について、保護者は8割の理解がある。生徒の意識は93%が人の嫌がることをしない言わないなど相手を知る人権意識がみられた。今後も様々な校内活動での推進体制を深めていく。 ・地球規模の視点での課題解決に向けての学習は、まだまだ深めていく必要があり、オンラインによる諸外国の方々との遠隔のコミュニケーションによる交流学習など工夫をしていく。			
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											C	2: 60%以上	・人権尊重の取組について、保護者は8割の理解がある。生徒の意識は93%が人の嫌がることをしない言わないなど相手を知る人権意識がみられた。今後も様々な校内活動での推進体制を深めていく。 ・地球規模の視点での課題解決に向けての学習は、まだまだ深めていく必要があり、オンラインによる諸外国の方々との遠隔のコミュニケーションによる交流学習など工夫をしていく。
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。													
た一個 め人別 の目 基と標 礎り3 とが な個性 力と能 育力 成を し発揮 する	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	生徒、保護者アンケートによる本校の体力・健康に関する指導の満足度	4: 85%以上	・道徳科及び各教科で道徳教育を行い、豊かな情操や道徳心につながる議論する道徳を実施している。 ・道徳教育についての研修をさらに深め、様々な資料を活用した授業を展開するなど、道徳指導の充実を図る。 ・数学到達度についてステップ学習(電子版)チェックシートの活用が定着しつつある。 ・英語、数学の補習教室は参加者が増え、苦手な生徒のサポートにもなっている。繰り返し参加する生徒も多い。時間内の様子も真剣さが増えてきており、生徒の自主的な学習態度も身についてきた。さらに学習補助員の時数増加が望まれる。 ・読解力向上を図るための各教科での取組を継続している。タブレットを活用した意見共有や話し合い活動ができていて、生徒の読解力向上にもつながることができた。 ・今年度の体育的行事は充実した取組になり、体力向上を図ることができた。また、石中タイムという全校で取り組む体力向上プログラムをスーパーアクティブスクールの研究校時代から継続的に実施でき効果を上げている。 ・望ましい生活習慣についての意識啓発を引き続き行い、今後も体力向上の視点に立った健康教育を推進していく。 ・これまでの研究成果をもとに、実施方法をさらに工夫し、全校体制で運動習慣の向上を図っていく。 ・1年次での道徳授業における「食育」が浸透し、生徒の食に関する意識が高まることと、家庭科での栄養価の授業や、毎日の給食時に献立紹介で食育面での話を生徒に伝えている。	A	12	・学習習熟度に応じた指導や学習支援策が適切に行われている。 ・道徳の授業を観させてもらいました。授業では1年生の授業で「ともに生きる」生命の尊さでした。なかなか難しい課題だと感じました。私が考える道徳は善悪をわきまえて正しい行為をする。答えが出る授業にした方が生徒にはわかりやすいのではないのでしょうか。 ・英語・数学の補習教室の参加者が増えていることから自ら学ぼうとする前向きな姿勢を感じます。それは学力向上につながると思います。また、学校で収穫したミカンが給食で提供される事は他校にはないよい食育です。石中の生徒は「知・特・体」のバランスがよく取れていると思います。 ・少人数の良さを活かして生徒1人ひとりの能力(学習・体育)に応じた教育が成されていると思います。・道徳の授業は先生方の実体験などを語ることによって身近かに感じられ、良かったと思う。 ・英語、数学の補習教室の参加者が増えるなど生徒の学力向上に向けた取り組みの成果が見えてきている。体育的行事の充実など生徒が豊かな人生を生きていくうえで基礎となる力の育成に努めている。 ・今後より一層、小中一貫の連携を深めていけるといいと思います。						
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								3	3: 70%以上	・道徳科及び各教科で道徳教育を行い、豊かな情操や道徳心につながる議論する道徳を実施している。 ・道徳教育についての研修をさらに深め、様々な資料を活用した授業を展開するなど、道徳指導の充実を図る。 ・数学到達度についてステップ学習(電子版)チェックシートの活用が定着しつつある。 ・英語、数学の補習教室は参加者が増え、苦手な生徒のサポートにもなっている。繰り返し参加する生徒も多い。時間内の様子も真剣さが増えてきており、生徒の自主的な学習態度も身についてきた。さらに学習補助員の時数増加が望まれる。 ・読解力向上を図るための各教科での取組を継続している。タブレットを活用した意見共有や話し合い活動ができていて、生徒の読解力向上にもつながることができた。 ・今年度の体育的行事は充実した取組になり、体力向上を図ることができた。また、石中タイムという全校で取り組む体力向上プログラムをスーパーアクティブスクールの研究校時代から継続的に実施でき効果を上げている。 ・望ましい生活習慣についての意識啓発を引き続き行い、今後も体力向上の視点に立った健康教育を推進していく。 ・これまでの研究成果をもとに、実施方法をさらに工夫し、全校体制で運動習慣の向上を図っていく。 ・1年次での道徳授業における「食育」が浸透し、生徒の食に関する意識が高まることと、家庭科での栄養価の授業や、毎日の給食時に献立紹介で食育面での話を生徒に伝えている。			
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											C	2: 60%以上	・道徳科及び各教科で道徳教育を行い、豊かな情操や道徳心につながる議論する道徳を実施している。 ・道徳教育についての研修をさらに深め、様々な資料を活用した授業を展開するなど、道徳指導の充実を図る。 ・数学到達度についてステップ学習(電子版)チェックシートの活用が定着しつつある。 ・英語、数学の補習教室は参加者が増え、苦手な生徒のサポートにもなっている。繰り返し参加する生徒も多い。時間内の様子も真剣さが増えてきており、生徒の自主的な学習態度も身についてきた。さらに学習補助員の時数増加が望まれる。 ・読解力向上を図るための各教科での取組を継続している。タブレットを活用した意見共有や話し合い活動ができていて、生徒の読解力向上にもつながることができた。 ・今年度の体育的行事は充実した取組になり、体力向上を図ることができた。また、石中タイムという全校で取り組む体力向上プログラムをスーパーアクティブスクールの研究校時代から継続的に実施でき効果を上げている。 ・望ましい生活習慣についての意識啓発を引き続き行い、今後も体力向上の視点に立った健康教育を推進していく。 ・これまでの研究成果をもとに、実施方法をさらに工夫し、全校体制で運動習慣の向上を図っていく。 ・1年次での道徳授業における「食育」が浸透し、生徒の食に関する意識が高まることと、家庭科での栄養価の授業や、毎日の給食時に献立紹介で食育面での話を生徒に伝えている。
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。													
た一個 め人別 の目 基と標 礎り3 とが な個性 力と能 育力 成を し発揮 する	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	生徒、保護者アンケートによる本校の学習満足度	4: 85%以上	・道徳科及び各教科で道徳教育を行い、豊かな情操や道徳心につながる議論する道徳を実施している。 ・道徳教育についての研修をさらに深め、様々な資料を活用した授業を展開するなど、道徳指導の充実を図る。 ・数学到達度についてステップ学習(電子版)チェックシートの活用が定着しつつある。 ・英語、数学の補習教室は参加者が増え、苦手な生徒のサポートにもなっている。繰り返し参加する生徒も多い。時間内の様子も真剣さが増えてきており、生徒の自主的な学習態度も身についてきた。さらに学習補助員の時数増加が望まれる。 ・読解力向上を図るための各教科での取組を継続している。タブレットを活用した意見共有や話し合い活動ができていて、生徒の読解力向上にもつながることができた。 ・今年度の体育的行事は充実した取組になり、体力向上を図ることができた。また、石中タイムという全校で取り組む体力向上プログラムをスーパーアクティブスクールの研究校時代から継続的に実施でき効果を上げている。 ・望ましい生活習慣についての意識啓発を引き続き行い、今後も体力向上の視点に立った健康教育を推進していく。 ・これまでの研究成果をもとに、実施方法をさらに工夫し、全校体制で運動習慣の向上を図っていく。 ・1年次での道徳授業における「食育」が浸透し、生徒の食に関する意識が高まることと、家庭科での栄養価の授業や、毎日の給食時に献立紹介で食育面での話を生徒に伝えている。	A	12	・学習習熟度に応じた指導や学習支援策が適切に行われている。 ・道徳の授業を観させてもらいました。授業では1年生の授業で「ともに生きる」生命の尊さでした。なかなか難しい課題だと感じました。私が考える道徳は善悪をわきまえて正しい行為をする。答えが出る授業にした方が生徒にはわかりやすいのではないのでしょうか。 ・英語・数学の補習教室の参加者が増えていることから自ら学ぼうとする前向きな姿勢を感じます。それは学力向上につながると思います。また、学校で収穫したミカンが給食で提供される事は他校にはないよい食育です。石中の生徒は「知・特・体」のバランスがよく取れていると思います。 ・少人数の良さを活かして生徒1人ひとりの能力(学習・体育)に応じた教育が成されていると思います。・道徳の授業は先生方の実体験などを語ることによって身近かに感じられ、良かったと思う。 ・英語、数学の補習教室の参加者が増えるなど生徒の学力向上に向けた取り組みの成果が見えてきている。体育的行事の充実など生徒が豊かな人生を生きていくうえで基礎となる力の育成に努めている。 ・今後より一層、小中一貫の連携を深めていけるといいと思います。						
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								4	3: 70%以上	・道徳科及び各教科で道徳教育を行い、豊かな情操や道徳心につながる議論する道徳を実施している。 ・道徳教育についての研修をさらに深め、様々な資料を活用した授業を展開するなど、道徳指導の充実を図る。 ・数学到達度についてステップ学習(電子版)チェックシートの活用が定着しつつある。 ・英語、数学の補習教室は参加者が増え、苦手な生徒のサポートにもなっている。繰り返し参加する生徒も多い。時間内の様子も真剣さが増えてきており、生徒の自主的な学習態度も身についてきた。さらに学習補助員の時数増加が望まれる。 ・読解力向上を図るための各教科での取組を継続している。タブレットを活用した意見共有や話し合い活動ができていて、生徒の読解力向上にもつながることができた。 ・今年度の体育的行事は充実した取組になり、体力向上を図ることができた。また、石中タイムという全校で取り組む体力向上プログラムをスーパーアクティブスクールの研究校時代から継続的に実施でき効果を上げている。 ・望ましい生活習慣についての意識啓発を引き続き行い、今後も体力向上の視点に立った健康教育を推進していく。 ・これまでの研究成果をもとに、実施方法をさらに工夫し、全校体制で運動習慣の向上を図っていく。 ・1年次での道徳授業における「食育」が浸透し、生徒の食に関する意識が高まることと、家庭科での栄養価の授業や、毎日の給食時に献立紹介で食育面での話を生徒に伝えている。			
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											C	2: 60%以上	・道徳科及び各教科で道徳教育を行い、豊かな情操や道徳心につながる議論する道徳を実施している。 ・道徳教育についての研修をさらに深め、様々な資料を活用した授業を展開するなど、道徳指導の充実を図る。 ・数学到達度についてステップ学習(電子版)チェックシートの活用が定着しつつある。 ・英語、数学の補習教室は参加者が増え、苦手な生徒のサポートにもなっている。繰り返し参加する生徒も多い。時間内の様子も真剣さが増えてきており、生徒の自主的な学習態度も身についてきた。さらに学習補助員の時数増加が望まれる。 ・読解力向上を図るための各教科での取組を継続している。タブレットを活用した意見共有や話し合い活動ができていて、生徒の読解力向上にもつながることができた。 ・今年度の体育的行事は充実した取組になり、体力向上を図ることができた。また、石中タイムという全校で取り組む体力向上プログラムをスーパーアクティブスクールの研究校時代から継続的に実施でき効果を上げている。 ・望ましい生活習慣についての意識啓発を引き続き行い、今後も体力向上の視点に立った健康教育を推進していく。 ・これまでの研究成果をもとに、実施方法をさらに工夫し、全校体制で運動習慣の向上を図っていく。 ・1年次での道徳授業における「食育」が浸透し、生徒の食に関する意識が高まることと、家庭科での栄養価の授業や、毎日の給食時に献立紹介で食育面での話を生徒に伝えている。
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。													
た一個 め人別 の目 基と標 礎り3 とが な個性 力と能 育力 成を し発揮 する	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	生徒、保護者アンケートによる本校の学習満足度	4: 85%以上	・道徳科及び各教科で道徳教育を行い、豊かな情操や道徳心につながる議論する道徳を実施している。 ・道徳教育についての研修をさらに深め、様々な資料を活用した授業を展開するなど、道徳指導の充実を図る。 ・数学到達度についてステップ学習(電子版)チェックシートの活用が定着しつつある。 ・英語、数学の補習教室は参加者が増え、苦手な生徒のサポートにもなっている。繰り返し参加する生徒も多い。時間内の様子も真剣さが増えてきており、生徒の自主的な学習態度も身についてきた。さらに学習補助員の時数増加が望まれる。 ・読解力向上を図るための各教科での取組を継続している。タブレットを活用した意見共有や話し合い活動ができていて、生徒の読解力向上にもつながることができた。 ・今年度の体育的行事は充実した取組になり、体力向上を図ることができた。また、石中タイムという全校で取り組む体力向上プログラムをスーパーアクティブスクールの研究校時代から継続的に実施でき効果を上げている。 ・望ましい生活習慣についての意識啓発を引き続き行い、今後も体力向上の視点に立った健康教育を推進していく。 ・これまでの研究成果をもとに、実施方法をさらに工夫し、全校体制で運動習慣の向上を図っていく。 ・1年次での道徳授業における「食育」が浸透し、生徒の食に関する意識が高まることと、家庭科での栄養価の授業や、毎日の給食時に献立紹介で食育面での話を生徒に伝えている。	A	12	・学習習熟度に応じた指導や学習支援策が適切に行われている。 ・道徳の授業を観させてもらいました。授業では1年生の授業で「ともに生きる」生命の尊さでした。なかなか難しい課題だと感じました。私が考える道徳は善悪をわきまえて正しい行為をする。答えが出る授業にした方が生徒にはわかりやすいのではないのでしょうか。 ・英語・数学の補習教室の参加者が増えていることから自ら学ぼうとする前向きな姿勢を感じます。それは学力向上につながると思います。また、学校で収穫したミカンが給食で提供される事は他校にはないよい食育です。石中の生徒は「知・特・体」のバランスがよく取れていると思います。 ・少人数の良さを活かして生徒1人ひとりの能力(学習・体育)に応じた教育が成されていると思います。・道徳の授業は先生方の実体験などを語ることによって身近かに感じられ、良かったと思う。 ・英語、数学の補習教室の参加者が増えるなど生徒の学力向上に向けた取り組みの成果が見えてきている。体育的行事の充実など生徒が豊かな人生を生きていくうえで基礎となる力の育成に努めている。 ・今後より一層、小中一貫の連携を深めていけるといいと思います。						
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								4	3: 70%以上	・道徳科及び各教科で道徳教育を行い、豊かな情操や道徳心につながる議論する道徳を実施している。 ・道徳教育についての研修をさらに深め、様々な資料を活用した授業を展開するなど、道徳指導の充実を図る。 ・数学到達度についてステップ学習(電子版)チェックシートの活用が定着しつつある。 ・英語、数学の補習教室は参加者が増え、苦手な生徒のサポートにもなっている。繰り返し参加する生徒も多い。時間内の様子も真剣さが増えてきており、生徒の自主的な学習態度も身についてきた。さらに学習補助員の時数増加が望まれる。 ・読解力向上を図るための各教科での取組を継続している。タブレットを活用した意見共有や話し合い活動ができていて、生徒の読解力向上にもつながることができた。 ・今年度の体育的行事は充実した取組になり、体力向上を図ることができた。また、石中タイムという全校で取り組む体力向上プログラムをスーパーアクティブスクールの研究校時代から継続的に実施でき効果を上げている。 ・望ましい生活習慣についての意識啓発を引き続き行い、今後も体力向上の視点に立った健康教育を推進していく。 ・これまでの研究成果をもとに、実施方法をさらに工夫し、全校体制で運動習慣の向上を図っていく。 ・1年次での道徳授業における「食育」が浸透し、生徒の食に関する意識が高まることと、家庭科での栄養価の授業や、毎日の給食時に献立紹介で食育面での話を生徒に伝えている。			
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											C	2: 60%以上	・道徳科及び各教科で道徳教育を行い、豊かな情操や道徳心につながる議論する道徳を実施している。 ・道徳教育についての研修をさらに深め、様々な資料を活用した授業を展開するなど、道徳指導の充実を図る。 ・数学到達度についてステップ学習(電子版)チェックシートの活用が定着しつつある。 ・英語、数学の補習教室は参加者が増え、苦手な生徒のサポートにもなっている。繰り返し参加する生徒も多い。時間内の様子も真剣さが増えてきており、生徒の自主的な学習態度も身についてきた。さらに学習補助員の時数増加が望まれる。 ・読解力向上を図るための各教科での取組を継続している。タブレットを活用した意見共有や話し合い活動ができていて、生徒の読解力向上にもつながることができた。 ・今年度の体育的行事は充実した取組になり、体力向上を図ることができた。また、石中タイムという全校で取り組む体力向上プログラムをスーパーアクティブスクールの研究校時代から継続的に実施でき効果を上げている。 ・望ましい生活習慣についての意識啓発を引き続き行い、今後も体力向上の視点に立った健康教育を推進していく。 ・これまでの研究成果をもとに、実施方法をさらに工夫し、全校体制で運動習慣の向上を図っていく。 ・1年次での道徳授業における「食育」が浸透し、生徒の食に関する意識が高まることと、家庭科での栄養価の授業や、毎日の給食時に献立紹介で食育面での話を生徒に伝えている。
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。													
た一個 め人別 の目 基と標 礎り3 とが な個性 力と能 育力 成を し発揮 する	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	生徒、保護者アンケートによる本校の学習満足度	4: 85%以上	・道徳科及び各教科で道徳教育を行い、豊かな情操や道徳心につながる議論する道徳を実施している。 ・道徳教育についての研修をさらに深め、様々な資料を活用した授業を展開するなど、道徳指導の充実を図る。 ・数学到達度についてステップ学習(電子版)チェックシートの活用が定着しつつある。 ・英語、数学の補習教室は参加者が増え、苦手な生徒のサポートにもなっている。繰り返し参加する生徒も多い。時間内の様子も真剣さが増えてきており、生徒の自主的な学習態度も身についてきた。さらに学習補助員の時数増加が望まれる。 ・読解力向上を図るための各教科での取組を継続している。タブレットを活用した意見共有や話し合い活動ができていて、生徒の読解力向上にもつながることができた。 ・今年度の体育的行事は充実した取組になり、体力向上を図ることができた。また、石中タイムという全校で取り組む体力向上プログラムをスーパーアクティブスクールの研究校時代から継続的に実施でき効果を上げている。 ・望ましい生活習慣についての意識啓発を引き続き行い、今後も体力向上の視点に立った健康教育を推進していく。 ・これまでの研究成果をもとに、実施方法をさらに工夫し、全校体制で運動習慣の向上を図っていく。 ・1年次での道徳授業における「食育」が浸透し、生徒の食に関する意識が高まることと、家庭科での栄養価の授業や、毎日の給食時に献立紹介で食育面での話を生徒に伝えている。	A	12	・学習習熟度に応じた指導や学習支援策が適切に行われている。 ・道徳の授業を観させてもらいました。授業では1年生の授業で「ともに生きる」生命の尊さでした。なかなか難しい課題だと感じました。私が考える道徳は善悪をわきまえて正しい行為をする。答えが出る授業にした方が生徒にはわかりやすいのではないのでしょうか。 ・英語・数学の補習教室の参加者が増えていることから自ら学ぼうとする前向きな姿勢を感じます。それは学力向上につながると思います。また、学校で収穫したミカンが給食で提供される事は他校にはないよい食育です。石中の生徒は「知・特・体」のバランスがよく取れていると思います。 ・少人数の良さを活かして生徒1人ひとりの能力(学習・体育)に応じた教育が成されていると思います。・道徳の授業は先生方の実体験などを語ることによって身近かに感じられ、良かったと思う。 ・英語、数学の補習教室の参加者が増えるなど生徒の学力向上に向けた取り組みの成果が見えてきている。体育的行事の充実など生徒が豊かな人生を生きていくうえで基礎となる力の育成に努めている。 ・今後より一層、小中一貫の連携を深めていけるといいと思います。						
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								4	3: 70%以上	・道徳科及び各教科で道徳教育を行い、豊かな情操や道徳心につながる議論する道徳を実施している。 ・道徳教育についての研修をさらに深め、様々な資料を活用した授業を展開するなど、道徳指導の充実を図る。 ・数学到達度についてステップ学習(電子版)チェックシートの活用が定着しつつある。 ・英語、数学の補習教室は参加者が増え、苦手な生徒のサポートにもなっている。繰り返し参加する生徒も多い。時間内の様子も真剣さが増えてきており、生徒の自主的な学習態度も身についてきた。さらに学習補助員の時数増加が望まれる。 ・読解力向上を図るための各教科での取組を継続している。タブレットを活用した意見共有や話し合い活動ができていて、生徒の読解力向上にもつながることができた。 ・今年度の体育的行事は充実した取組になり、体力向上を図ることができた。また、石中タイムという全校で取り組む体力向上プログラムをスーパーアクティブスクールの研究校時代から継続的に実施でき効果を上げている。 ・望ましい生活習慣についての意識啓発を引き続き行い、今後も体力向上の視点に立った健康教育を推進していく。 ・これまでの研究成果をもとに、実施方法をさらに工夫し、全校体制で運動習慣の向上を図っていく。 ・1年次での道徳授業における「食育」が浸透し、生徒の食に関する意識が高まることと、家庭科での栄養価の授業や、毎日の給食時に献立紹介で食育面での話を生徒に伝えている。			
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											C	2: 60%以上	・道徳科及び各教科で道徳教育を行い、豊かな情操や道徳心につながる議論する道徳を実施している。 ・道徳教育についての研修をさらに深め、様々な資料を活用した授業を展開するなど、道徳指導の充実を図る。 ・数学到達度についてステップ学習(電子版)チェックシートの活用が定着しつつある。 ・英語、数学の補習教室は参加者が増え、苦手な生徒のサポートにもなっている。繰り返し参加する生徒も多い。時間内の様子も真剣さが増えてきており、生徒の自主的な学習態度も身についてきた。さらに学習補助員の時数増加が望まれる。 ・読解力向上を図るための各教科での取組を継続している。タブレットを活用した意見共有や話し合い活動ができていて、生徒の読解力向上にもつながることができた。 ・今年度の体育的行事は充実した取組になり、体力向上を図ることができた。また、石中タイムという全校で取り組む体力向上プログラムをスーパーアクティブスクールの研究校時代から継続的に実施でき効果を上げている。 ・望ましい生活習慣についての意識啓発を引き続き行い、今後も体力向上の視点に立った健康教育を推進していく。 ・これまでの研究成果をもとに、実施方法をさらに工夫し、全校体制で運動習慣の向上を図っていく。 ・1年次での道徳授業における「食育」が浸透し、生徒の食に関する意識が高まることと、家庭科での栄養価の授業や、毎日の給食時に献立紹介で食育面での話を生徒に伝えている。
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。													

<p>学個別 校別 力目 ・標 教4 師力 を向 上さ せま す</p>	<p>校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上させます。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。</p>	<p>①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。</p> <p>②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特徴を生かしたりして教育活動を行っている。</p> <p>③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。</p> <p>1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>生徒、保護者アンケートによる本校の生活満足度</p> <p>4:85%以上</p> <p>3:70%以上</p> <p>2:60%以上</p> <p>1:60%未満</p>	<p>・校内研修で授業改善のOJTを充実を図り、学期1回講師を招いて実施している。少ない時間を有効活用し、定期的ミニ授業研修ができる体制作りを行う必要がある。</p> <p>・校内研究授業を通じて今年度は授業のUD化、特別支援教育の視点での授業改善を通して誰もがわかる授業や、学習意欲を高められる授業改善につながる活動ができています。保護者の8割が授業改善プランに基づく取り組みについて評価をしている。</p> <p>・区や都の主催する研究発表会に参加し、研修の成果を共有したり、自身の授業改善に生かすことができている。</p> <p>・教員支援員による授業準備のサポート、特別補助員による特性のある生徒の支援、登校支援員による不登校生徒への支援の協力など教員が生徒との向き合う時間の確保に役立っている。学校にかかわる人へのウェルビーイングを高める取組になっている。さらなる取り組みの効果を高めたい。</p> <p>・特別補助員、登校支援員の人員、配置時間が増える。</p> <p>・校内委員会を毎週行い、特別支援教育を推進した。</p>	<p>A 11</p> <p>B 3</p> <p>C</p> <p>D</p>	<p>・教員の働き方改革についても積極的に推進していることが伺える。</p> <p>・教員負担軽減のため、特別補助員、登校支援員の配置時間が増えることを望みます。</p> <p>・不登校生徒がいますので、家庭・生徒・保護者・教育支援員・特別補助員、授業サポート教員様の援助をいただいて1人でも不登校生徒がいなくなるように努めていただきたい。絶対に不登校生徒をそのままにしてはいけません。よろしくお願ひいたします。</p> <p>・日々お忙しい中、校内外の研修を行い、生徒のためにより良い授業づくりをしていただき感謝いたします。</p> <p>・教員志望者が少ない中において様々な対策を講じていること高く評価します。外部からの特別補助員、支援員の増員を望みたい。</p> <p>・先生方の自己肯定感も上げていくべきと考えます。限られた時間の中で最大限の努力をしてきたと自身が評価していくべきである。</p> <p>・多忙の中でも定期的にミニ授業研修を実施するなど教職員の授業力向上に努めていることが伺える。</p> <p>・本校でも業務の適正化には、苦慮しています。</p>
<p>た自個 め分別 の目 学し 標 びく 5 をい き 援い し ま す と 生 き る</p>	<p>困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整え、相談機能の充実を図ること、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。</p>	<p>①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。</p> <p>②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。</p> <p>③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満の教員が回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満の教員が回答した。</p> <p>1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>生徒、保護者アンケートによる本校の生活満足度</p> <p>4:85%以上</p> <p>3:70%以上</p> <p>2:60%以上</p> <p>1:60%未満</p>	<p>・インクルーシブ教育システムの構築に向けて通常学級と特別支援学級との交流活動や、一緒に行事を取り組むことを通じて、様々な特性に対する理解を深められている。それによる一人一人がそれぞれが主役で学校生活ができる環境づくりにつながっている。生徒の88%は相談できる先生がいるとの回答があった。</p> <p>・教育相談部会の充実、SCや特別支援教室巡回指導教員などの専門家からの意見を児童生徒指導に活かすことができている。</p> <p>・定期的に会議を開くことにより情報交換が密になり、問題行動や不登校問題に組織的に対応し、SC等の専門家や関係機関とも連携をとることができた。</p> <p>・生活指導主任を中心に楽しい学校生活を送るためのアンケート(WEB Q)及び学校生活調査の結果を分析し、事象の未然防止・早期発見・早期解決を図るために組織的に取り組むことができた。</p>	<p>A 12</p> <p>B 1</p> <p>C</p> <p>D</p>	<p>・特別支援学級の課題や不登校問題の対応について、適切に検討されている。</p> <p>・ものを隠す事件(上履きやその他)昨年はものを隠す事件があったと聞きました。今年は大丈夫ですか。少し気になるのは生徒の下校時間に一部の生徒が大きな声を出したり、追いかけてこしながら下校している生徒を見ました。私も注意をしますが、下校指導も宜しく。</p> <p>・生徒の88%が相談できる先生がいると回答しているということは、石中はとても素敵な学校だと改めて感じました。また、通常学級と特別支援学級の交流活動があるからこそ、お互いが理解し、それぞれが学校生活で活躍できるのだと思いました。</p> <p>・困難を抱えた生徒に対する対応もきめ細かに行われていると思います。</p> <p>・小規模校の利点を活かして全員が主役になれる活動を期待している。</p> <p>・「生徒の86%は相談できる先生がいる」という結果から教職員と生徒との良好な関係性が築かれていることがつたわつた。</p>
<p>安柔個 心軟 なで 目 教創 標 造 環 境な 学 習 空 間 と 安 全</p>	<p>学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。</p>	<p>①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。</p> <p>②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。</p> <p>③図書室の環境整備を定期的に行い、生徒の読書活動の向上を推進する。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>生徒、保護者アンケートによる本校の教育環境・安全に関する満足度</p> <p>4:85%以上</p> <p>3:70%以上</p> <p>2:60%以上</p> <p>1:60%未満</p>	<p>・安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備していることへの保護者の理解は9割の回答があった。</p> <p>・地域の防災訓練に生徒がボランティアで参加したり、校内防災訓練に地域の消防署・消防団に協力をいただいたりして活動を深めることができている。生徒が自ら非常時に活用できる力の育成をさらに進めていく。</p> <p>・避難訓練を毎月いろいろな状況を想定して実施し、地震・火災・津波・不審者・Jアラートなどの対応を身に付けることができている。訓練は常に本番を意識した取り組みを今後も継続する。</p> <p>・石中図書100選を実施し、保護者からも多くの協力をいただいた。その時期や季節に応じた百人一首ミニ本などが当たる企画を立て、図書室利用を促した。図書室利用に対して7割の保護者は学校図書館の活性化を理解しているが、まだ読書活動の充実や図書室の様子を伝える等啓発が必要である。</p>	<p>A 11</p> <p>B 2</p> <p>C</p> <p>D</p>	<p>・地域の防災訓練についても、学校として十分な協力体制がとられている。</p> <p>・安全・安心の向上は評価できる。ICT環境の推進という点において明確にできると良いと思った。</p> <p>・石川台中学校の現在の教室環境では仕方がないのですが、生徒のバックが大きいために机の脇を通るのが大変だと感じます。バックのチャックをしっかり閉めたりすべさだと思ひます。緊急時に避難が難しいと感じます。教室の後ろのロッカーの整理を望みます。</p> <p>・有事の際、日頃から訓練をしている中学生の存在は頼もしいです。また、保護者が協力して様々な企画をし、図書室の利用を促す取り組みは生徒の読書活動の向上につながったと思います。</p> <p>・精神的、物理的にも安心安全な教育環境作り尽力して欲しい。</p> <p>・校内で活動している先生方の評価が低いのは、環境整備に対する改善策があると思うので、かたしていかなくてはいけません。</p> <p>・生徒が地域の一員として地域の防災訓練に参加することは、地域の防災意識向上にあたって大変な力となると考えます。引き続き、連携しながら、防災活動の取り組みを進めていただくようお願いいたします。</p> <p>・学校図書室の活用についても小中連携できるとよいですね。</p>
<p>学地学 校校 別別 をコ ・目 つミ 家標 く庭 7リ ニ まテ 地 域 の 核 連 と 携 し て 協 働 に よ る</p>	<p>地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。</p>	<p>①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。</p> <p>②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。</p> <p>③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>生徒、保護者による「地域に関わった学校」満足度</p> <p>4:85%以上</p> <p>3:70%以上</p> <p>2:60%以上</p> <p>1:60%未満</p>	<p>・地域教育連絡協議会が今年度6月から学校運営協議会に変わり、コミュニティスクールとして始動している。年6回定例会を開催する。生徒会役員生徒との懇談会を通じた生徒の要望、地域の考えや要望についての話し合いも行うことができ、更に地域とのつながりが深められている。保護者はCSについては8割以上が取り組みを評価している。</p> <p>・学校運営協議会委員の方々には貴重なご意見をいただいたり、支援が必要な生徒に関わっていただくこともあり、本当に感謝している。地域のご協力を可能な範囲で今後もお願いしたい。</p> <p>・学校だより、学年だより、保健だよりを定期的に発行することができた。学年だよりは学校生活の様子がよくわかると保護者からの評判も高い。9割以上の保護者の評価があった。HPIにおける生徒の活動情報の公開に関しては個人情報保護等の観点に立ち、工夫を凝らしている。</p> <p>・学校支援地域本部の支援により校内緑化が推進された。また長期休業中の自習教室の講師派遣にも協力いただき、東京科学大学の学生にも協力いただくことができた。</p> <p>・地域主催行事の盆踊りのボランティアでは5割の生徒が参加し干束地区スポーツ祭では代表生徒が参加し貢献できた。</p> <p>・校内ボランティアとしてKFC校長プロジェクトや地域落ち葉掃きミカン狩りなどが実施でき多くの生徒が参加できた。</p>	<p>A 13</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	<p>・石川台中学校は地域との保護者のつながりは非常にしっかりと行われていると思う。</p> <p>・「学校だより」の保護者歓迎に対するコメントや「おとん、おかん」目安箱への取り組みなど、学校と保護者・生徒の距離が大変近くて素晴らしいと思いました。</p> <p>・学校だよりでは、生徒の様子がよくわかります。保護者はこの学校だよりを読むと安心するのではないのでしょうか。勿論、学級だより等もありましたら見せていただければと思います。千束地区で色々な行事を行っています。できれば、色々な行事の反省会等も可能なら出席してください。文章の提出でもいいので。</p> <p>・石中生は地域のボランティア活動に進んで参加し、社会貢献ができると思います。我々も学校・保護者と連携、共同して生徒の健やかな成長の一助となれるよう今後も努めていきたいと思ひます。</p> <p>・生徒が地域社会においてボランティア活動を積極的にを行い、視野を広げていることを評価したい。生徒役員と学校運営協議会との懇談会、今後も続けてほしい。</p> <p>・生徒会役員と学校運営協議会の話し合いでは、良い発言が多くあったが、もう一声子供たちの本音の考えを聞けると良かった。</p> <p>・コミュニティスクールとなり、これまで異常な地域等と学校の繋がりが強くなったと感じられ、また双方向のコミュニケーションも図られていると実感します。</p>

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す